

毎日歌壇

米川千嘉子 選

どこまでもどこならぬけるか思いつつ撫めぬ人生のクレーンをのぼす 名古屋市 外山 雪

△評▽工事現場の巨大クレーンを思い浮かべる。大空を引っかくように懸命に探って何がつかめるか。下句には意欲が籠もる。帰国して「日本は寒い」と言う息子亡夫の手袋はめて出かける 大阪市 小熊 光子

△評▽南の赴任地から帰国した息子に亡夫の手袋を。息子と亡夫がふと重なる。妊婦乗るバスは静かにうなずいて凸凹道を慎重に行く 古賀市 砂山ふらり

いかなごを賜ひし友ともう逢へず春の思ひ出ひと握りを買ふ 堺市 梶田有紀子

お二人も元気で過ごさしと敬語で話す 孫は成人 水戸市 庄司 良江

これ以上立ち入らないでと書いてある壁によく似たおもてなしスマイル 広島市 堀 眞希

近づける息子の拳式に夫婦して顔つき合わせ謝辞を練りゆく 川崎市 大平真理子

猫が逃げ子は鼻血出す七時半共働きの時計が止まる 大分市 赤峰 宏史

センサーでパツと明かりの点くトイレお化け屋敷のやうなぞくぞく 幸手市 中村 早苗

垣根くつし三和土を割りたる庭の桜花ちるを待ち代ると決めたり 吹田市 鈴木 基充

加藤 治郎 選

シニールにはなれないわれが許せない鏡に映るシニールなわれを 東京 福島 隆史

△評▽鏡に映る自分は深層心理を表しているのだろう。思いがけない姿なのだ。私は日常の意識のままでいたいのである。午後からはだらだらしている具体的には来月の予定をたてる 大津市 ササキアツシ

△評▽ありのままの自分が詩になる。短歌の妙味だ。下句の展開が巧みなのである。「下句もの」とひなたのような声がしてよそもどうし春に寄り添う 仙台市 水科 あき

ほとんどが余白の手紙から滲む君が幸せそうであれし 大津市 世田 夏雪

ありふれた凡ゆる色を塗っていくパンを弟は食べてしまふ 平塚市 芝澤 樹

いいねそれと頷くたびにどこから借りてきたような口だと思ふ 所沢市 神田 望

板チョコを半券のように分け合つてふたりの続きについて話そう 武蔵野市 北谷 雪

美しくなくてもいいよ 灯台を守るきもちで口紅を引く 堺市 羽原 藍

今頃はあの人だけの誕生日桜の見える歩道橋渡る 名古屋市 外山 雪

感情は短い動画に左右され野菜スープを啜る月曜 東京 新井 将

水原 紫苑 選

どの雪も雪と名乗って降り積もる自己とは名前のことにあらずも 相模原市 高田 祥聖

△評▽雪は本当に名乗るのだろうか。雪の自己とは何なのか。読む者に限りなく問いが広がる雪の原野。夢のなかのわたしはわたしの妻まなかはくもくれんのなかの生首 浜松市 尾内甲太郎

△評▽ハクモクレンの中の生首は耐えられず匂い出すだろう。私は私のままではない。フレームが壊れたメガネをかけて見る絵画と私の距離感わずか 横浜市 砂月 七

FREE GAZA 車体が大書されたまま鉄道員が走らせるパリ 川崎市 船山 登

電話越し わたしから見えない月がアプリコットにあかるさと知る 東京 奥山いずみ

雨粒も星粒もみな音符なり朝は国境線を越ゆるも 雲南市 熱田 一俊

いきものの祈りをしんと受けとめて火の匂ひする春の神殿 見附市 有村 桔梗

怒りの日ティエス・イレ金の朝日に晒されて街はあくまで鎮もるものを 名古屋市 浅井 克宏

ちひさな海と見做す連河の曲がり角 生きる、幸福論注ぎ足して 横浜市 永永 キヌ

どこかでまだ性善説を信じてる四時のひかりで顔を拭って 花巻市 永汐 れい

伊藤 一彦 選

気まぐれをおこした風が予報士をひとり残らず嘔吐きにする 東京 石川 真琴

△評▽氣象予報は進歩している。それでも限界がある。「気まぐれ」と面白く擬人化しているが、自然の奥深さを歌う秀作だ。唯一の神と神とが人と人を戦はしむやガザは瓦礫に 三鷹市 関 静男

△評▽ガザの深刻な人道危機を生みだしている背景を作者は宗教の面からも考察する。良い方の地獄だったと退職の花束が散るころの結論 武蔵野市 北谷 雪

寄せ鍋の煮え立つ音が激しくて思わず課長が秘密を話す ふじみ野市 雨雨雨汰

学ばない生き物として記さるや原発再稼働予定つきつき 鹿嶋市 大熊佳世子

廃校の壁に桜の影あわく風の形をとどめむとする 京都市 黒宮 純子

みどり児も若き夫婦に抱えられ村の総会成立となる 酒田市 朝岡 剛

熱のあるわが子の服を脱がす時つとめて隠す心細さを 横浜市 森山 緋紗

よく知った街のどこにも春は満ち知らない小径を選んで曲がる 東京 奥山いずみ

髪を切るそれだけなのに妻変わる髪が生えたら俺も変わるさ 大阪市 吉田 昌之

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます